

地域活動と少年・少女キャンプについての実践報告

—江東区少年の船の場合—

○廣田治久(余暇問題研究所) 栗原邦秋()

キーワード: 地域活動、地域教育、自然生活体験、包括的機能

1. はじめに

平成7年、「江東区少年の船自然生活体験事業」(以下、少年の船)へ「専門講師」として参画するよう依頼を請けた。「専門講師」とは、野外活動を中心とする集団生活体験である組織キャンプの運営に対して、その専門家として助言し、実際のキャンプ活動中は主に指導部を指揮・監督する。

第1回少年の船は、平成4年度より開催されており、第3回までは三宅島を開催地としていた。そして、ここまでで得られた反省を元に、第4回(平成7年度)より現行の八丈島を開催地として再選定すると同時に運営組織体制も見直し、そこに「専門講師」が据えられた経緯をもつ。

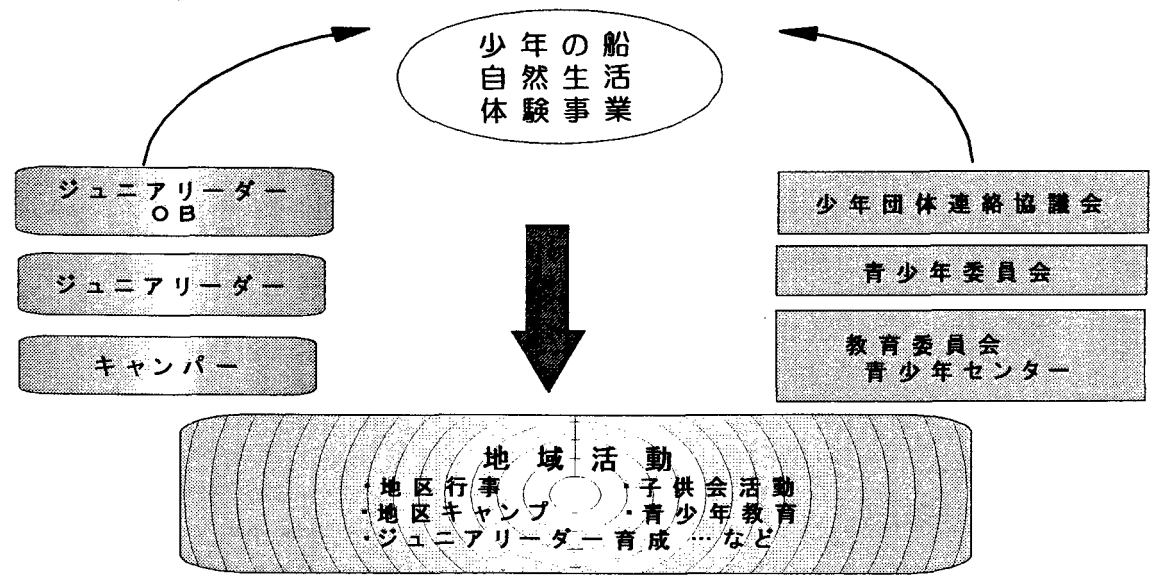
おりしも、平成8年文部省中央教育審議会は、近年噴出する教育問題への警鐘として、体験学習の重要性を示し、豊かな自然環境における異年齢集団による集団生活体験を推奨した。同じく、地域社会における教育環境の整備・充実も提唱した。(平成11年<全国こどもプラン>発表)

本実践報告は、少年の船が単にひとつの少年・少女キャンプとして成功していばかりでなく、広く地域教育、青少年健全育成、さらには生涯学習の範囲に及び成果をあげている点に着目し、その内容を示し説明することで、多方面からの意見ならびに評価を頂戴できることを目的とする。

2. 少年の船の概要

対象は、小学6年～中学3年生約80人。運営は、実行委員会のもと「管理部」「指導部」が置かれる。毎年7月下旬6泊7日に、テント泊による野外生活体験および集団活動を行なっている。

3. 少年の船の特徴



『循環作用』(地域活動と青少年健全育成との連動と還元)

○「キャンパーからリーダーへ」: キャンパーは区内小・中学校を通じて広く募られる。同時に、区内地域活動ならびに青少年健全育成事業の一環であるジュニアリーダー養成講習を受けている児童・生徒達への参加も募られる。一方、少年の船指導部に加わり現地で活躍するキャンプリーター達は、ジュニアリーダー養成講習を終えた高校生を中心に、さらにそのOBである大学生・社会人で構成される。彼等は、日頃より各地区における青少年活動(地区キャンプ、子供会活動など)においてもリーダーシップを発揮している。これらの両者が一緒になり、少年の船における集団生活体験を通じて好ましい関係へと発展する。すなわち、キャンパー達は目前で活躍するリーダー達に憧憬を示し、ジュニアリーダー養成講習への参加や将来キャンプリーターとして発展的に参加する意欲を強くする。そして、この好ましい関係が、日頃の地域活動および青少年活動の場へと移行して継続する。

現在、<キャンパー→リーダー→リーダーOB>への移行と継続が実現している。※さらに将来は、育成者にまで発展することが期待される。

○「育成者の学習機会」: 日頃から青少年健全育成の一環として行なわれる様々な活動でイニシアティブをとる区少年委員会および区少年団体連絡協議会の委員達が、少年の船実行委員会を経て現地では管理部として述べ25人が現地へ赴き、キャンプサイトの設営、食材・燃料調達、給食、給水、警備などの“裏方”に徹する。キャンプのプログラム・生活指導といった直接的にキャンパーを指導することはないものの、子供達やリーダーである高校生そして大学生・社会人達の行動の様子、さらに専門講師の指導場面を傍で観察する好機を得る。これを普段の青少年活動運営に反映するという自然発生的な体験学習となっている。

○「相互理解と感謝」: 上記の点についてはキャンパーならびにリーダーの側にも同様の作用が起こる。育成者が献身的に作業する(炎天下での薪割りなど)姿は、キャンパーやリーダー達の目に映る。それは、「自分達のために…」とする感謝と畏敬の念へと発展する。

○「事務局機能」: 実行委員会ならびに現地管理部における事務局として機能する区教育委員会が、その役割である連絡・調整・渉外(折衝)の任を貫徹している。

これら、少年の船における好ましい事象(具体例)の根底には、日頃より営まれている地域活動の成果がある。そして、それらを土台として少年の船が開催され、そこで得た成果が、さらに日頃の地域活動へと還元され発展していく状況を『循環作用』として少年の船における最大の効果として着目したい。いわば、異年齢集団内でそれぞれが互いを理解し尊重しあうことの重要性を“おなじ釜の飯体験”で学び、それを実践しうる構図が、少年の船と区内地域活動を位置づける関係となっている。

4.まとめ

青少年教育、社会教育、青少年健全育成に関連する諸事業(プログラム)は広範にわたる領域について考慮しながら運営されるべきものであるが、現実には断片的に終始してしまう帰来がある。少年の船は、江東区における多岐にわたる地域活動事業を上手に結び付けることに成功した好例といえるであろう。また、幅広い年齢層と広範な社会性基盤(学歴や職業など)をもつ者が、それぞれを理解し尊重しあうことを体験的に学ぶ、生涯学習の実践場として高く評価することも妥当と考える。